

6331-15

平成13年4月26日

各関係機関長

各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除所長

平成13年度病害虫発生予報第1号について

平成13年度病害虫発生予報第1号を発表したので送付します。

平成13年度病害虫発生予報第1号

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

○発生予報の概要

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 | 本文での 記載ページ |
|-----------------|--|--------|---------------|
| | | 平年比 | |
| 早期水稲 | 葉いもち スクミリンゴガイ イネミズゾウムシ | 並 | P 2 |
| | | 並 | P 2 |
| | | 並 | P 2 |
| 冬春きゅうり (半促成) | べと病 うどんこ病 褐斑病 ミナミキイロアザミウマ | 並 | P 2 |
| | | やや多 | P 2 |
| | | やや多 | P 3 |
| | | やや少 | P 3 |
| 冬春ピーマン | 斑点病 うどんこ病 ミナミキイロアザミウマ | 並 | P 3 |
| | | 並 | P 3 |
| | | 並 | P 3 |
| 冬春トマト | 葉かび病 コナジラミ類 ハモグリバエ類 | 並 | P 3 |
| | | 並 | P 3 |
| | | 並(前年比) | P 3 |
| 野菜・工芸作物全般 | アブラムシ類 | やや多 | P 4 |
| かんきつ | そうか病 かいよう病 ミカンハダニ | 並 | P 4 |
| | | 並 | P 4 |
| | | 並 | P 4 |
| 茶 | 炭そ病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ | やや多 | P 4 |
| | | 並 | P 4 |
| | | 並 | P 5 |
| | | 並 | P 5 |
| | | 並 | P 5 |
| | | 並 | P 5 |
| | | やや少 | P 5 |
| | | — | P 5 |

○5月の気象予報

気温は平年並、降水量は平年並か平年より多い見込み。(1か月予報 鹿児島地方気象台4/20発表)

○発生予報の根拠および防除対策

早期水稲

1 葉いもち

[予報の根拠]

- 1) イネの生育は平年並である。
- 2) 育苗箱施薬は前年並で、栽培面積の5割以上に及ぶと見込まれる。
- 3) 5月の気温は平年並、降水量は平年並か平年より多いと予想されている。

[防除上の注意]

- 1) 気象条件に注意し、ほ場での初発生を確実に把握する。病斑が認められたら直ちに粉剤または液剤で防除する。
- 2) 箱施薬をしていないほ場では、発生初期の防除が手遅れにならないよう注意する。

2 スクミリンゴガイ

[予報の根拠]

1) 4月中旬の発生面積率14.6%(平年14.8%)、 m^2 当たり貝数0.3頭(平年1.1頭)は平年並である。

[防除上の注意]

1) 水田の入排水口には金網を張り、貝の侵入を防止する。

2) 貝の生息数が多い場合は、捕殺するか粒剤の水面施用を行う。

3) 粒剤の水面施用に際しては水管理に十分注意し、水深が3cm程度になるように調整し、少なくとも4日間はかけ流し、落水はしない。

3 イネミズゾウムシ

[予報の根拠]

1) 4月中旬の発生面積率39.6%(平年37.1%)、百株当たり虫数6.4頭(平年3.0頭)は平年並である。

2) 移植期の早い水田を主体に、畦畔際のイネに食害が見られる。

[防除上の注意]

1) 気温が上昇してくると飛翔活動が活発になる。水田への侵入最盛期は5月上旬頃と予想される。

2) 発生量が多い場合は、越冬成虫の侵入盛期に粒剤の水面施用を行う。水面施用に当たっては水管理に十分注意し、水深が3cm程度になるように調整し、少なくとも4日間はかけ流しや落水はしない。

冬春きゅうり(半促成)

1 ベと病

[予報の根拠]

1) 4月中旬の発生面積率77.8%(平年83.5%)、発病葉率13.3%(平年21.1%)は平年並である。

2 うどんこ病

[予報の根拠]

1) 4月中旬の発生面積率22.2%(平年28.9%)は平年並、発病葉率6.1%(平年4.0%)は平年よりやや多い。

3 褐斑病

[予報の根拠]

1) 4月中旬の発生面積率44.4%(平年21.2%)、発病葉率9.7%(平年2.7%)はやや多い。

4 ミナミキイロアザミウマ

[予報の根拠]

1) 4月中旬の発生面積率5.5%(平年29.5%)、1葉当たり虫数0.06頭(平年1.5頭)は少ない。

冬春ピーマン

1 斑点病

[予報の根拠]

1) 4月中旬の発生面積率36.4%(平年59.0%)は平年よりやや少なく、発病葉率4.0%(平年10.1%)は平年より少ない。

2) 5月の気温は平年並、降水量は平年並か平年より多いと予想されている。

[防除上の注意]

1) ハウス内の換気を良くし、高温多湿にならないよう注意する。

2) 整枝を行って茎葉が過繁茂にならないよう管理する。

2 うどんこ病

[予報の根拠]

1) 4月中旬の発生面積率18.2%(平年41.5%)、発病葉率2.5%(平年5.9%)は平年並である。

3 ミナミキイロアザミウマ

[予報の根拠]

1) 4月中旬の発生面積率27.3%(平年43.2%)、10花当たり虫数1.9頭(平年2.4頭)は平年並である。

[防除上の注意]

1) 常に観察を行い、低密度のうちに防除を徹底する。

2) 本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

冬春トマト

1 葉かび病

[予報の根拠]

- 1) 4月中旬の発生面積率9.1% (平年13.9%)、発病葉率1.5% (平年2.5%) は平年並である。

2 コナジラミ類

[予報の根拠]

- 1) 4月中旬の発生面積率9.1% (平年13.9%)、1葉当たり虫数0.2頭 (平年0.3頭) は平年並である。

3 ハモグリバエ類

[予報の根拠]

- 1) 4月中旬の発生面積率25.0% (前年20.0%) は例年並、寄生葉率5.6% (前年2.7%) は例年よりやや多い。

野菜、工芸作物全般

1 アブラムシ類

[予報の根拠]

- 1) 黄色水盤トラップでの誘殺状況は4月以降やや多い。

かんきつ

1 そうか病

[予報の根拠]

- 1) 古葉での越冬病斑量は平年並である。
- 2) 新葉での初発生は4月16日現在確認されていない。
- 3) 5月の降水量は平年並か、平年よりやや多いと予想されている。
[防除上の注意]
- 1) 重点防除時期は萌芽期 (芽の長さ3mm)、落花期、幼果期である。

2 かいよう病

[予報の根拠]

- 1) 古葉での越冬病斑量は平年並である。
- 2) 4月中旬の強風雨により発生が助長された可能性がある。
- 3) 5月の降水量は平年並か、平年よりやや多いと予想されている。
[防除上の注意]
- 1) 開花直前、落花後、梅雨期、秋芽生育期に予防散布する。

3 ミカンハダニ

[予報の根拠]

- 1) 4月中旬の発生面積率14.8% (平年21.6%)、寄生葉率2.6% (平年3.0%) は平年並である。
[防除上の注意]
- 1) 生息密度が高くなると防除効果が劣るので、寄生葉率30% (1葉当たり虫数0.5~1頭) を目安に防除を行う。

茶

1 炭そ病

[予報の根拠]

- 1) 4月中旬の発生面積率26.7% (平年39.4%)、㎡当たり病葉数4.9 (平年3.4) は平年並である。
- 2) 5月の降水量は平年並か、平年よりやや多いと予想されている。

2 カンザワハダニ

[予報の根拠]

- 1) 4月中旬の発生面積率26.7% (平年51.9%)、寄生葉率1.1% (平年6.8%) は平年よりやや少ない。
[防除上の注意]
- 1) 晩霜害後に多発しやすいので、被害園では注意する。
- 2) 同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を実施する。
- 3) 合ピレ剤の春季使用はリサージェンスが発生しやすいので注意する。

3 チャノコカクモンハマキ

[予報の根拠]

- 1) フェロモントラップでの誘殺状況では、発蛾最盛期は4月3半旬で、発蛾量は平年並である。

4 チャノホソガ

[予報の根拠]

- 1) 4月中旬の発生面積率13.3% (平年12.0%)、㎡当巻葉数0.1 (平年0.6) は平年並である。
[防除上の注意]

- 1) 三角巻葉前に防除することが必要で、発蛾最盛期の約10日後が防除適期である。
- 2) 脱皮阻害剤は遅効性なので卵期に散布する。

5 チャノミドリヒメヨコバイ

[予報の根拠]

- 1) 4月中旬の発生面積率6.7% (平年7.5%)、払落虫数0.1頭 (平年0.1頭) は平年並である。

6 チャノキイロアザミウマ

[予報の根拠]

- 1) 4月中旬の巡回調査では新芽での発生は未確認である。
(平年発生面積率34.8%、払落虫数2.9頭)

[防除上の注意]

- 1) 2番茶期から発生が増えてくるので注意する。

7 クワシロカイガラムシ

[防除上の注意]

- 1) 第1世代幼虫の初発時期は地域間差及びほ場間差があるため、ふ化状況をよく観察し、防除適期を把握する。
- 2) 薬剤散布は量を多めに(10a当たり1,000リットル)、噴口を茶株の中に差し込んで枝幹に十分かかるように行う。

○その他

- 1) 防除等の詳細については「平成13年度病害虫、雑草防除等指導指針」を参照する。

- 2) 農薬の使用に当たっては、農薬安全使用基準の遵守並びに危被害の発生防止に努める。特に水質汚濁性農薬ベンゾエピン剤(商品名、マリックス乳剤、粒剤等)は使用しないこと。

3 発生量(程度)の区分

多い(高い) やや多いの外側10%の度数の入る幅

やや多い(やや高い) 平年並の外側20%の度数の入る幅

平年並 平年値を中心として40%の度数の入る幅

やや少ない(やや低い) 平年並の外側20%の度数の入る幅

少ない(低い) やや少ないの外側10%の度数の入る幅

(平年値は過去10年間の平均)

○お知らせ(<http://jppn.ne.jp/miyazaki/>)

病害虫防除所では、ホームページで情報を提供しています。予察情報の根拠となる地域別調査データ、防除対策等を登録しています。ぜひご利用ください。

(最近の追加登録内容)

・トマトサビダニの生態と防除対策

・主要病害虫の発生動向

(平成12年度産、冬春ピーマン、冬春トマトの4月の巡回調査結果)

・ミナミキイロアザミウマの生態

・カンキツの黒点病防除用簡易降水量計の製作法

・植物の病気の簡易検定法

[Back](#)